

- 食、スポーツ、自然・農体験、文化、学習、調査研究活動など、印旛沼・流域をめぐる多様な楽しみ方や活動が広がっています。
- 印旛沼・流域をめぐる歴史や文化が、印旛沼・流域のアイデンティティとして引き継がれ、多くの人を魅了しています。
- 印旛沼・流域の風土にあった生きもののすみかが広がっています。

3.2.4 印旛沼・流域の再生目標

前ページの基本理念、つまり恵み豊かな印旛沼・流域を再生するため、次の5つの目標を設定します。

5つの目標

目標1 良質な 飲み水の源 印旛沼・流域

印旛沼は、多くの千葉県民の水道水源です。
命の源である水源が良好に保たれる印旛沼・流域を目指します。

目標2 遊び、泳げる 印旛沼・流域

かつて、印旛沼や河川は、子どもたちの遊び場でした。
人々が水にふれあい、遊ぶことのできる、水が清らかな印旛沼・流域を目指します。

目標3 ふるさとの 生き物はぐくむ 印旛沼・流域

かつて、印旛沼や流域では、多様な生き物がはぐくまれていました。印旛沼の水質悪化や流域の都市化、外来種の侵入等により、沼本来の生き物が減少しています。
多様な生き物を呼び戻し、ふるさとの生き物が生息・生育できるような印旛沼・流域を目指します。

目標4 水害に強い 印旛沼・流域

かつて、印旛沼・流域は、洪水による大きな被害を受けてきました。今でも大雨の時には、浸水被害等が生じています。
大雨でも大きな被害を出さない、水害に強い印旛沼・流域を目指します。

目標5 人が集い、 人と共生する 印旛沼・流域

印旛沼・流域は、私たちに様々な恵みを与えてくれます。それを再認識し、地域の宝としてはぐくんでいきます。
人々が集まり、人々とともに生きていく、活力と誇りにあふれる印旛沼・流域を目指します。



3.2.5 目標達成状況を評価する指標

5つの目標について、それぞれに関連する9項目の評価指標と目標を設定し、これらの目標を指標にして、目標達成状況を評価します。

評価指標	現状 2008（平成20）年度	2030（令和12）年度 における目標
①水質	<ul style="list-style-type: none"> ★クロロフィルa^{※1} : 年平均85 μg/L ★COD^{※1} : 年平均8.5mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ★クロロフィルa : 年平均40 μg/L 以下 ★COD : 年平均5mg/L 以下
②アオコ	<ul style="list-style-type: none"> ★ところどころにアオコが発生している 	<ul style="list-style-type: none"> ★アオコが発生しない
③清澄性	<ul style="list-style-type: none"> ★透明度^{※2} : 0.2m程度 	<ul style="list-style-type: none"> ★岸辺に立って沼底が見える（透明度1.0 m程度）
④におい	<ul style="list-style-type: none"> ★季節や場所によって臭気が発生がある 	<ul style="list-style-type: none"> ★臭気がしない
⑤水道に適した水質	<ul style="list-style-type: none"> ★2-MIB^{※3} : 0.003~1.9 μg/L ★トリハロメタン生成能^{※3} : 0.068~0.102mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ★2-MIB : 年最大0.1 μg/L 以下 ★トリハロメタン生成能 : 年最大0.1mg/L以下
⑥利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ★水辺に近付ける場所や、そこを利用する人数が限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ★増加する
⑦湧水	<ul style="list-style-type: none"> ★流域の湧水で涸渇する所がある ★「硝酸性窒素および亜硝酸性窒素」が10mg/Lを超える所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ★印旛沼底や水源の谷津で豊かな清水が湧く ★湧水水質 硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 : 10mg/L 以下
⑧生き物 ^{※4}	<ul style="list-style-type: none"> ★外来生物（特に特定外来生物）が侵入・拡大している ★在来生物が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> ★在来生物種が保全される ★かつて生息・生育していた生物種（特に沈水植物）が復活する ★外来種（特に特定外来生物）が駆除される
⑨水害	<ul style="list-style-type: none"> ★鹿島川や高崎川の下流部などで浸水被害が発生している 	<ul style="list-style-type: none"> ★概ね30年に一度の大雨でも大きな被害を出さない^{※5}

※1 西印旛沼「上水道取水口下」地点の値を記載しています。

※2 佐倉ふるさと広場近くでの見透視度調査による値です。（見透視度はP47、48参照）

※3 2-MIB、トリハロメタン生成能は、「柏井浄水場原水」の値を記載しています。

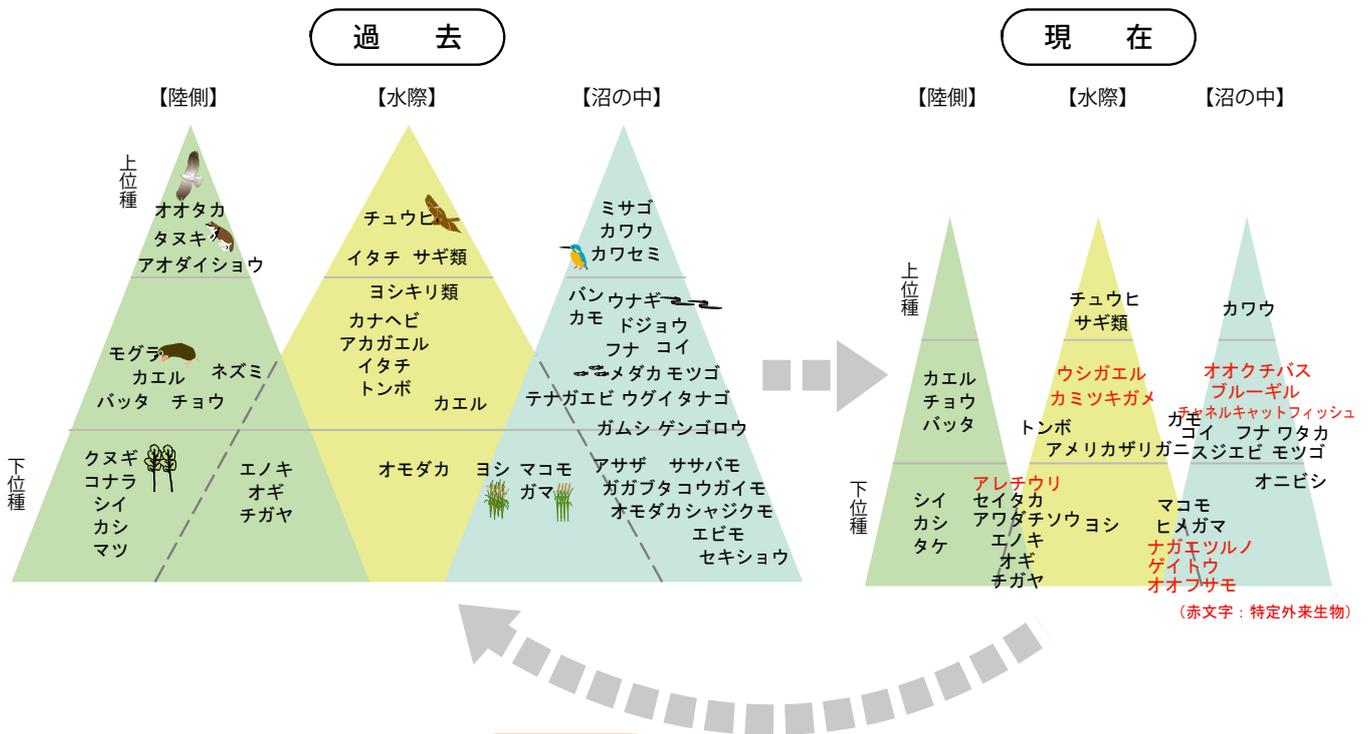
※4 次ページに詳細を記載しています。

※5 印旛沼における目標で、「手賀沼・印旛沼・根木名川圏域 河川整備計画」（2007年7月策定）の目標年次は2037年度です。

※評価指標(P24)「⑧生き物」に関する目標について

過去(昭和30年代)の印旛沼・流域では、陸～水際～沼において様々な生物が生息・生育し、豊かな生態系が維持されていました。しかし、現在では在来の生物種は減少し、特定外来生物をはじめとする外来種が多く見られる等、生態系は劣化しています。将来においては、過去に代表されるように、陸～水際～沼において様々な生物が生息・生育する豊かな生態系となることを目指します。

《生態系のピラミッド》



将来

在来生物を保全・再生するとともに、外来生物を抑制し、過去の姿に近い、多様で豊かな生態系を目指します。

(生態系ピラミッドはイメージ図です)



3.2.6 行動原則～印旛沼方式～

目標達成のための行動原則「印旛沼方式」として次の5つを定めます。

1 水循環の視点、流域の視点で総合的に解決します

印旛沼とその流域全体での視点、治水・水質・生態系・親水利用等の総合的な水循環の視点から、恵みの沼の再生を目指します。

2 印旛沼の地域特性を活かします

印旛沼流域内の都市域や農村域等、それぞれの地域の特徴を踏まえて取組を進めます。

都市域：生活雑排水による水質悪化、コンクリート・アスファルト等地表被覆面の拡大による雨水の地下浸透の減少、降雨に伴う地表流出水による汚濁物質流出の増大

農村域：開発等による水源の涵養域である山林や谷津の減少、担い手の不足

3 みためし行動で進めます

作成した計画の実行状況や目標の達成状況を常に確認しながら、計画を進めていきます。つくったら終わりの計画ではなく、必要に応じて計画を点検し、見直します。

4 住民と行政が一体となって進めます

住民・市民団体・企業・行政等がともに手を携えて計画を実践します。流域住民は様々な取組やモニタリング調査等で、幅広く計画の実施に参加します。

行政は、住民の意識啓発や、住民・企業・行政連携の対策を進めます。さらに、水循環健全化に向けたアイデア・提案を広く住民から募集する仕組みをつくり

ます。
住民による取組の例：貯留・浸透施設の設置、台所等の生活雑排水対策、谷津や湧水の保全活動への参加等

5 行政間の緊密な連携を確保します

流域市町・千葉県・国が、また、河川・環境・農林水産・上下水道・都市・教育等の各担当部局が、水循環健全化のために横断的に協力して計画を実践していきます。

4

印旛沼・流域の再生に向けた対策

4.1 印旛沼・流域の再生に向けた対策

基本理念「恵みの沼をふたたび」及び、5つの目標達成のため、9のテーマと9のテーマの推進を支える取組のもと、具体的な対策に取組みます。また、具体的な取組は、社会の動向や地域のニーズに合わせて各行動計画で定めます。

目 標	テーマ	具体的な取組
目標1 良質な 飲み水の源 印旛沼・流域	湧水や地下水を保全・活用します	具体的な取組は、 期ごとにその時の 社会動向や地域の ニーズ等に応じて、 各行動計画において 設定
目標2 遊び、泳げる 印旛沼・流域	流域から入る水の汚れを減らします	
目標3 ふるさとの生き物 はぐくむ 印旛沼・流域	川や沼における 水環境を保全・再生します	
	ふるさとの生き物をはぐくみます	
目標4 水害に強い 印旛沼・流域	流域全体で水害から まちや交通機関を守ります	
目標5 人が集い、 人と共生する 印旛沼・流域	水辺を活かした地域づくりを推進します	
	印旛沼学習※を活発にします	
	共感を広げ、多様な主体との 連携・協働を推進します	
	取組を推進する仕組み・制度の検討や 調査・研究を推進します	

分野間の取組を推進するテーマ

※5つの目標とテーマは、特に関係の深いものの対応を示しています。
 ※印旛沼学習とは、印旛沼流域に関係する歴史・文化、自然環境、防災、まちづくり等あらゆる面への学習のことを示します。

5

着実な計画推進のために

印旛沼及び流域の再生は、一朝一夕でなし得るものではありません。昭和40年代以降、約30年かけて、流域水循環の変化、印旛沼の水質悪化、生態系の劣化等が生じてきました。これらを改善、再生していくためには、長期にわたる取組が必要です。また、その間、社会状況や印旛沼周辺の状況も変化すると考えられます。

本計画の目標年次は2030（令和12）年度で、関係者全員が、今後20年以上の間、取組を継続していかなければなりません。そこで、次のような考え方・仕組みにより、関係者全員が意識を持ち続け、取組を着実に実行していきます。

5.1 計画推進の方法

着実な計画推進のために、下記の4つを行います。

- ①目標の達成状況は毎年確認します。取組の実施状況は、各行動計画において定める進捗管理方法に従い確認します。
- ②5年毎に計画（目標達成状況や取組内容等）を点検し、必要に応じて計画を見直します。
- ③各行動計画が終了する段階で、各期の課題等を踏まえて次期行動計画を決定します。
- ④印旛沼流域水循環健全化会議を継続的に開催し（1回 / 年程度）、会議において①～③について評価・確認・討議します。

計画

- ・健全化計画
- ・行動計画
（第1期、第2期、第3期、第4期）

実践

- ・取組実施
- ・みためし行動
- ・印旛沼わいわい会議

恵みの沼を
ふたたび

見直し

- ・実施状況の評価
- ・取組の見直し
- ・新たな取組の立案

確認

- ・取組の実施量
- ・目標達成状況
- ・モニタリング

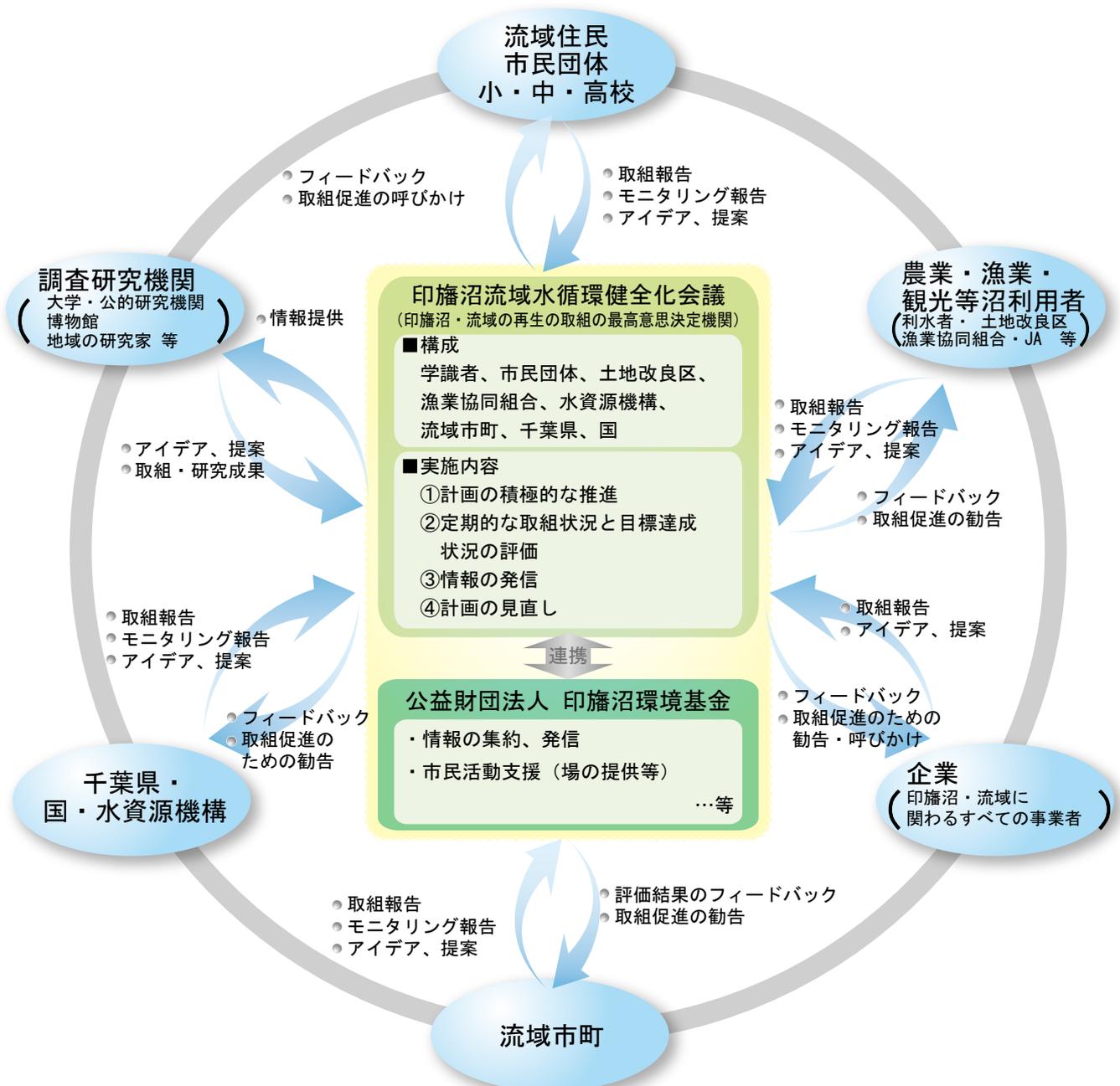
「みためし※」による計画推進

※みためし（見直し）：経験を積み重ねて、試行錯誤を繰り返しながら確立していくこと

5.2 印旛沼の6者連携

印旛沼流域水循環健全化会議を中心に、住民や市民団体、企業、水利用者、行政等関係する6者が連携して計画を推進します。

また、地域の専門家や市民団体、行政等が連携して計画を推進・実践するため、健全化会議と印旛沼環境基金は連携した体制をとり、市民活動等の取組を推進します。



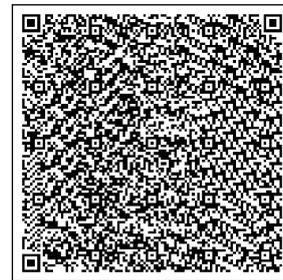
印旛沼の6者連携



5.3 情報の発信

健全化計画の内容や計画の実施状況、モニタリング結果の他、イベント情報等印旛沼の水循環健全化に関する情報を、WEB サイト等により、広く発信します。

最新の情報を随時更新するとともに、情報収集の場、意見交換の場としても活用していきます。



QR コード

WEB サイト「いんばぬま情報広場」

<http://inba-numa.com/>

印旛沼・流域再生 恵みの沼をふたたび

印旛沼流域水循環健全化計画

2010年3月 初版発行
2012年3月 改訂
2017年3月 第1次改定
2022年3月 第2次改定

印旛沼流域水循環健全化会議 事務局
千葉県

県土整備部 河川環境課

TEL：043-223-3155 FAX：043-221-1950

環境生活部 水質保全課

TEL：043-223-3821 FAX：043-222-5991

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1

mail：inbanuma@mz.pref.chiba.lg.jp

URL：http://www.pref.chiba.lg.jp

協力 パシフィックコンサルタンツ株式会社

表紙写真：流れゆく雲

(印旛村瀬戸より飯野・臼井方面を望む)

内田儀久氏 撮影・提供

